

時間割コード	G2B41024	開講年度	2026				
授業題目	環境経営論				担当教員	橋本 規之	
英文授業名	Environmental Management and Governance						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・3時限	対象学生	全
講義室	共通教育 6 1 講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	大学DP						
	学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力				持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力として、広い視野から環境経営について理解できるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生、防災減災						
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース						
(4)授業の概要	持続可能な社会を実現するためには、ビジネス活動を行う企業だけでなく、政策を実施する政府、広く社会活動を行うNPO・NGO、そして個々の市民も、主要なプレイヤーとなります。 また、各プレイヤーを取り巻く環境についても様々なものがあります。ここでは、自然環境の変動（地球環境、生態系）から、化学物質や重金属などによる公害・環境汚染、自然災害の発生、感染症の流行、といった各種のリスクに曝されている人間の生活・労働環境までを対象とします。 講義では、このような環境問題や環境リスクに直面する企業、政府、NPO・NGOなどのマネジメント（経営管理）やガバナンス（統治）を考える上で重要となる視点や方法論について学習していきます。様々な事例をとりあげて、失敗の教訓や成功の要因を導きます。 講義は3部構成です。第1部（第1回～第4回）では、総論賛成・各論反対になりがちな社会的ディレンマの問題や、共有資源の管理のあり方について検討します、また、環境問題や公害問題の歴史を概観します。 第2部（第5回～第10回）では、環境リスクのマネジメントとガバナンスに焦点を当てます。確率的な認識や、トレードオフを踏まえたリスクのマネジメント、多様な利害関係者に関かれたガバナンス等が主なトピックとなります。また、不確実な状況下の意思決定やリーダーシップのあり方を、危機対応の事例に基づいて検討していきます。 第3部（第11回～第15回）では、まず望ましい行動を促す環境デザインについて考えます。次に、ビジネスの倫理を、市場の失敗や企業統治との関連で捉えるとともに、倫理学や社会心理学の知見を援用して、倫理的判断のあり方にも光を当てます。最後に、環境経営のイノベーションを紹介します。						
(5)授業のキーワード	環境経営、コモンズ、社会的ディレンマ、公害、環境リスク、トレードオフ、不確実性、アーキテクチャ、フレーミング、イノベーション、組織能力、意思決定、リーダーシップ、危機対応						
(6)授業計画	次のような内容を予定しています。 第1回 コモンズと社会的ディレンマ（１） 第2回 コモンズと社会的ディレンマ（２） 第3回 公害・環境汚染の社会経済史（１） 第4回 公害・環境汚染の社会経済史（２） 第5回 環境リスクのマネジメント（１） 第6回 環境リスクのマネジメント（２） 第7回 環境リスクのガバナンス（１） 第8回 環境リスクのガバナンス（２） 第9回 不確実な状況下の意思決定とリーダーシップ（１） 第10回 不確実な状況下の意思決定とリーダーシップ（２） 第11回 環境デザインと選択アーキテクチャ（１） 第12回 環境デザインと選択アーキテクチャ（２） 第13回 不正・違法行為とビジネスの倫理 第14回 環境経営のイノベーション（１） 第15回 環境経営のイノベーション（２） 第15回の最後に、授業アンケートを実施します。						
(7)成績評価の方法	成績の評価は、中間試験と期末試験で行います。 中間試験は、eALPSを通じて行います。第8回終了後、1週間以内に受験してください。 期末試験は、期末試験期間中に、教室で行います。試験では、授業教材や参考書の利用は不可です。 中間試験の得点（100点満点）と期末試験の得点（100点満点）を合計した点数を2で割って、小数点以下を切り上げた点数が、最終的な成績評価の得点となります。						
(8)成績評価の基準	中間試験と期末試験の得点に基づき、次のような成績評価となります。 秀（90点～100点）：授業の理解度が「卓越している」						

(8)成績評価の基準	優（80点～89点）：授業の理解度が「かなり上にある」 良（70点～79点）：授業の理解度が「やや上にある」 可（60点～69点）：授業の理解度が「合格水準にある」 不可（60点未満）：授業の理解度が「合格水準に達していない」
(9)事前事後学習の内容	初回の授業で紹介する参考書は、事前の予習にも活用することができます。事後の学習では、講義資料をよく復習することが肝心です。各スライドの脚注や末尾の参考文献リストを復習や発展的な学習として利用してください。
(10)履修上の注意	授業で使うパワーポイント教材（PDF）は、原則、授業の前日に配布します。履修登録者の電子メールのアドレスが判明するまでは、eALPSに掲載します。判明後は、履修登録者に直接送信します。授業中に書き込みやメモがとれるように印刷などしておくとう便利でしょう。
(11)質問、相談への対応	授業後の教室、電子メール、zoom、研究室での面談（事前に予約のこと）で対応します。メール・アドレス：nhashimo@shinshu-u.ac.jp
(12)授業への出席	出席についての基準は設けていません。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	「学修の補充の対象とする事由」に該当し、かつ学生より学修補充の申し出があった場合に、学修補充を行います。基本的には、教材に関する質問に答えるかたちで対応します。
【教科書】	毎回配布するパワーポイント教材が、事実上の教科書になります。
【参考書】	授業全体に関する参考書については、初回の授業で説明・紹介します。また、テーマ別・トピック別の参考書は、各回の授業の参考文献リストの形で紹介しています。